

sunny after the rain

(詩集 雨のち晴れ)



飛鳥 圭

Prologue

Prologue

雨のち晴れや前を進むのはあなたとか、この一歩が明日を決するやら前に進まなきゃとか口では何とでも言えるよと思っていたのであるが、口先だけでも毎日唱えていると何故だかやってみようかとなるのである。ほんとうに不思議です。

そしてそれを実行している人たちに出会うとかひよんなことから知ってしまうと僕も私もと心が前に進んでしまう。やっぱりポジティブっていいことなのである。この詩集ではこのような poem がいいなあ？ と思ってはいるのだが、結局はいつもの感じのつまらない詩になっているような気がするのである。

うーん・・・詩、されど詩？ 奥が深いし結構難しいものなんだよねと思うこの頃なのである。そして一つぐらいは読者の皆さんにとって好きな詩があればと思うのである。

飛鳥 圭

目次

* p r o l o g u e

* 目次

I :

* 先祖たち . . . 3

* 海の日 . . . 4

* いつもいつも . . . 5

* あきらめないで . . . 6

* 甘えていいですか . . . 7

* 元気の届けもの . . . 8

* 夏のおくりもの . . . 9

* 夕立の頃に . . . 10

* 工夫って . . . 11

* 模様替え . . . 12

* 盆の終わる頃 . . . 13

.

* 二学期って . . . 14

* 風と君と . . . 15

* 1億2,800万分の一 . . . 16

* 家の音 . . . 17

* じっと見て . . . 18

* 風の通る道 . . . 19

* 非凡なる凡人 . . . 20

* 少年のかおり . . . 21

* 九月の恋 . . . 22

* 孤独感 . . . 23

II :

* 言い訳 . . . 24

* あの空へ . . . 25

* 元気でなきゃ . . . 26

* 秋、あき . . . 27

* 自由の扉 . . . 28

* 新たなところ . . . 29

* 子等の合唱 . . . 30

* 風をきって . . . 31

- *四季のうた・・・32
- *感じること・・・33
-
- *君の手・・・34
- *よおーいどん・・・35
- *寒い朝・・・36
- *忘れ得ぬ人・・・37
- *明日は・・・38
- *雑用って・・・39
- *まもなくX'mas・・・40
- *The Party・・・41
- *冬将軍・・・42
- *腹立ちラインナップ・・・43

III :

- *夢を見た・・・44
- *ひとりクリスマス・・・45
- *別れの思い出・・・46
- *いつものとおり・・・47
- *ふるさとの香り・・・48
- *ことしは・・・49
- *希望と夢と・・・50
- *あの頃・・・51
- *おめでとう・・・52
- *遙かふるさと・・・53
-
- *帆をあげよ・・・54
- *夢での邂逅・・・55
- *還付金・・・56
- *ゆっくり・・・57
- *何気なく・・・58
- *進むべき道・・・59
- *懐かしき頃・・・60
- *明日へ・・・61
- *分かっているのに・・・62
- *昼下がりに・・・63

IV :

- *朝のスマイル・・・64
- *贈り物・・・65
- *抱擁・・・66
- *ふるさとの山・・・67
- *気分を変えて・・・68
- *出かけよっ・・・69
- *正月休み・・・70
- *福は遠く・・・71
- *こんにちは・・・72
- *バクに乗って・・・73
-
- *春は何処に・・・74
- *むかし昔・・・75
- *1月のうた・・・76
- *手の動き・・・77
- *ゆとり・・・78
- *あの日あの頃・・・79
- *fiction・・・80
- *春の花・・・81
- *いつも二人・・・82
- *ただいま実家なり・・・83

V :

- *わが道・・・84
- *さらばふるさと・・・85
- *便利なこと・・・86
- *僕のミネラル・・・87
- *涙はね・・・88
- *心のメッセージ・・・89
- *希望の明日・・・90
- *春にはね・・・91
- *梅の花・・・92
- *遠くへ・・・93
-
- *錯覚・・・94
- *新年度・・・95

*いざ出陣・・・96

*初めての・・・97

*4月の詩・・・98

*新緑・・・99

*また実家へ・・・100

*回転木馬・・・101

*想い・・・102

*E p i l o g u e

(備考)

表紙の写真について・・雨音が優しく響く讃岐富士

うどん県(香川県)飯野山=いいのやま(別名:讃岐富士)、新日本百名山のひとつ、標高422m
昭和天皇、西行、高浜虚子が歌に詠まれている。

暁に 駒をとどめて 見渡せば 讃岐の富士に 雲ぞかかれる(昭和天皇)

*摂政宮の時、1992年11月丸亀平野での陸軍演習の際、美しい姿が目にとまり詠んだらしい)

讃岐には これをば富士と いいの山 朝げ煙 たため日はなし(西行)

*1168年善通寺で庵を結んだときに詠んだらしい

稻むしろ あり飯の野あり 昔今(高浜虚子)

*俳人:たかはまきよし、愛媛県温泉郡長町新町誕生、1874.2.22-1959.4.8(85歳没)

先祖たち

我が家の家系調査？

文政2年（1819年）6月に誕生した高祖母まで遡ることが出来ました。

まだ遡れるかもですが・・・これにて終了です。

そうそう元号ってなあに？・・・って感じなので身近かな人はどうなのか

確か坂本龍馬が天保6年（1836年）11月15日生まれだから、まあまあ遡れたんじゃないかと思っているのです。

そんなこんなで・・・無理に作った拙いpoem(笑)

皆さんもpoemを作ってみませんか？

－先祖たち－

歴史に生きた人

我が家の・・・

先祖はいずこに

もっと遡ってしまえば

皆が親族ではないか

そんな気がしてる

見知らぬ隣人も

元はというと

先祖は同じじゃないのか

気があう人って

特に気になる

そしてほんとうは

先祖が同じだったりして

分かる分かる・・・

だから心が通じるのか

遥か昔の・・・

先祖がいて君と僕がいる

海の日に

海の日は過ぎましたが・・・過ぎてもやはり海の日なのです(笑)

ー海の日にー

海を見ては
いつも思うのであるが

麦わら帽子を被り
砂浜で砂と戯れ

腹這いになって
寄せ来る波に
つかるのも良い

オオー冷たい
気持ちいいーって
子等のように
歓声をあげ

太陽を見やると
オオー眩しいって
またまた大声をあげ
やっぱり夏だねーって

いつまでも
大人も子供なんだからね

いつもいつも

実は・・・少し昔のこと。船便でないと小遣いが出来ないのです(笑)
新幹線の利用を想定した差額が・・・小遣いの額になるのですよ！
およそ？新幹線×1/2=高速バス、高速バス×1/2=フェリーなのです。
そうかそうか？・・・まあ・・・そういうことです。

ーいつもいつもー

同じ景色の
はずなのに・・・
ちょっとした位置や天候で
同じ景色はないような
そんな気がしてる

そしてそして
いつも楽しみに
カメラに収めてる

カモメがいたり
いなかったり

波の高さも
違ってたり
船のエンジン音も違ったり
もちろん
乗客も毎回違ってるし

こんな時に
何処かで見たよなって
互いに思っていて・・・

お見かけしましたよねって
ほんとに・・・
世間はせまいんだ

こんな時に

知人にでも
会ったりしたら
あらぬ話題にも
花が咲くんじゃないかって

いろんな妄想をして
好きな船旅も
いいんじゃないか

あきらめないで

夏！およそ4年前？いつぞやの日曜は正午から強い雨が降り、自宅に戻って
みるといつものこの時間、昨日は33℃だったのにこの日は27℃・・・。

6℃の温度差って・・・自然の力ってすごいです。

そして夜遅くには22℃になっていて寒いぐらいでした。

28日の朝も涼しくって良い感じです。

今朝は22.5℃・・・でした。

この状態が続けばと思っていますがダメですかね・・・。

ところで？

淡口醤油と料理本・・・いつも聞いているαステーション=FM京都の番組、サニサイドバルコニー
月曜日の番組ですが、なんとなんと・・・止めようと思っていたのですが？
午後3時過ぎに・・・ふっと応募してみようとメールしたのです。

まあ・・・絶対にだめだろうなあ？・・・だったのですが当たっちゃいました。

そうそう・・・当たったものだから強気です・・・(笑)

そしていつまでも変わらない・・・いつもの変なpoemに！！

—あきらめないで—

根気よく、辛抱強く

いずれは当たるんじゃないか

最後に笑うのは誰なんだ

僕に決まってるんだ

いつも前向きに

外れても外れても

めげずにただただ応募するんだ

そうそう

宝くじも始めなきゃ

希望の日があるって

長生きするよなあ

これからは何事も

あきらめないでおこう

甘えていいですか

ー甘えていいですかー

いろいろ

叱ってくれたり

励ましてくれたり

何かというと

気にかけてくれたり

関心をよせてくれている

これって愛なのかな

そうだよ

愛の反対って無関心だから

そうそう

甘えるって

かまって欲しいってことかな

甘えまくって

そして叱られて

その日から僕の行動も

ポジティブに前向きになった

甘えるのも

人によりけりだけど

甘えられるときが

一番幸せかも知れないと

僕は思っているのです

元気の届けもの

毎月発行するファミリーニュース！

親類や知人、友人に宛てて生活の状況をお知らせしているのです。

元気ですよー

辛うじて生きています等々(笑)

皆さんは如何ですか・・・。

ー元気の届けものー

会話も良いけど

何か記したものをって

いつまでも残るから

ちょっと恥ずかしさもある

そんな元気のニュースを

あなたにお届けします

お元気ですか

文は人なりかな

何々さん・・・らしいって

言われたりして

それもこれも愛嬌もあって

手紙のような感じで

良いかも知れないと

最近よく思うのです

夏のおくりもの

－夏のおくりもの－

平和の祈りが
今年もまた・・・
ひろしまからながさきから
私たちの住む町々に
そして世界の国々、町々に
届けられるのです

夏は特に平和を希求し
平和の祈りをしなければと
何故か思うのです

あの日の戦争が終わり
平和が続いているのだから
私たちが平和を守らないと
誰が守ってくれるんだと

ひとりひとりの心がひとつに
なってみんな戦争のない日をつ
くっていかなくちゃ

夕立の頃に

ー夕立の頃にー

ピカリ・・・

ドドーン

狂ったように

激しい雨が

ぴちぴちチャブチャブ

らんらんというような

雨じゃない

空が暗くなった

一段と強い雨に

これで涼しくなるぞ

雷鳴もだんだん

遠くで聞こえるようになった

もう大丈夫だ

夕立の頃に

君と2人っきりで

雨に打たれたあの日を

なつかしく思い出すのです

工夫って

エアコンの故障！

修理一例にて基盤交換3,200円、交換技術料10,000円計13,200円だった

ようです。この程度なら電器店に修理を頼もうか！

古いから部品がなかったりして買い換えになりはしないか？

とりあえずいろんな情報をチェックした結果、送風運転の後に冷房に切り替えて
みることにしました・・・さあさあ・・・どうなんだあ！？

送風運転を10分ほどした後に冷房運転に切り替えました・・・おお一運転が続い
てる続いてる♪・・・止まるなよ！このまま運転を続けてくれたまえー！

とりあえずば費用をかけずに復旧したのです・・・。

ー工夫ってー

生活の知恵・・・

うまい方法はないか？

工夫・・・くふう？

よい手段を見つけよう

ベストなやり方があるだろう

頭を使って

アイデアを盛り込んで

いろいろチャレンジして

あきらめずに

しっかりと

考えなくちゃ

人間って

考える動物なんだからね

工夫っていいよね

模様替え

思い出せない？記憶が飛んでしまってるのです。
大丈夫だろうか・・・痴ほう症？・・・若年性アルツハイマー-症？
確かに言ったような気はしてるのですが！！
♪ 跡 ♪ -ずしたとか、初めてデトしたとかじゃないと覚えて
なんかいませんよね？

そうそう夢の中で思い出すかも知れません・・・。
それとも気分転換に部屋の模様替えをしようかなあ！
そんなこと考えてたら・・・こんなpoemに・・・！！

ー模様替えー

明るくなった部屋
カラフルさに気をつけたんだ
彩りも楽しいよね
夢が生まれるようだ

こんな部屋には
素敵な会話が生まれて
ひとつひとつの事から
豊かな心が
大きく広がっていく

だから
だからなんだ・・・
会うたびに誘っているのに
今度ねって
なかなか来てくれない

愛しい君が
今か今かと
訪ねてくれるのを
楽しみにしてるんだ

盆の終わる頃

盆の季節・・・先祖の供養はもちろんですが、この8月は恒久平和を願う月と僕は思っているのです。

ポツダム宣言を受託して・・・やっと戦争が終結した月なのですから・・・。

ポツダム宣言・・・授業で習ったことがある。

過ぎし事を今さらながら悔しく思うのは、もっと早く終わらせて欲しかった。

戦後に生まれた方たちが思うのはこのことだと思うのですが、核兵器の威力の試験台と言うか、核兵器開発の人間に対してのEMMETにされたのですから・・・。

これが戦争の落ち着くところなんだって？

負けたのだから何も言えませんか？

愚かな当時の権力者によってとんでもない過ちの犠牲になった人々のことを我がことのように思うと・・・とてもとても・・・涙が止まりません。

ほんとうに理不尽なことです。

いつものことですが、僕ごときはご冥福をお祈りしていますとしか言えないのですが・・・ほんと・・・安らかに眠って下さい。

街中でトンボの姿を見つけました。

元気がよくなって・・・写真を撮ろうとしたら飛んでいってしまいました(笑)

ー盆の終わる頃ー

木々に太陽が輝き
日陰に秋風がそよぐと
秋の使者がやってくる

コオロギやトンボやら
秋の虫が
こんにちわって・・・
顔を出すのです

今年は・・・ねえねえ？
雨が多いよね
こちらは被害もなく
だいじょうぶだった？

ねぎらいの挨拶代わりに
僕のまわりを
何度もまわってくれるんだ

ありがとう
ありがとうって返事したら
そしたらね・・・
おじきして
サヨナラって飛んでいったよ

そう言えば
お墓参りの時に
会ったよね
その時は・・・
秋の準備に忙しそうで
声もかけて
くれなかったのにね

そうそう
今年も無事に
お盆を過ごしたからね

盆の終わる頃になると
何故だかね
妄想の世界にさまようんだ

二学期って

暑さもピークを過ぎて、そろそろ秋の気配を感じる頃になり
心あらたにして事にあたるには、けじめの季節かなと思って
いるのです。

懐かしき学びし頃の2学期の始まりと同じ気分なのです。
何故か遙かむかしの出来事を思い出していました・・・。

—二学期って—

1学期に

やり忘れたことを

夏休みに取り返したよ

まだなら

2学期で頑張るんだ

3学期にむけての

プロログなんだ2学期は

まん中って大事なんだ

過去の1学期と

未来の3学期が

2学期に何故か

ぶら下がってくるんだ

そうなんだ

2学期ってね

体の中心なんだからね

僕自身は

2学期で頑張りすぎたから

どうにか無事卒業できたし

就職も出来たからね

まあ谷あり・・・

山ありってことだけど

塞翁が馬的かな

風と君と

よく利用してた神戸-高松航路・神戸行きジャンボフェリー
ああーやっぱり盆休みを外せば、ほどほどの乗客で、ゆったりしてるわと
思ったのですが、途中の寄港地小豆島から多くの乗客も加わってたくさんの
乗客になってきました・・さすがにまだまだ夏休みです。

そして静かなのもいいのですが、多くの人たちが乗船していると活気があつ
て、これはこれでたまには良いものです。

ー風と君とー

大好きな君を
風にさらってもらおうか
どうせなら
僕に届けてほしい

愛しき君が風とともに
僕のところにやってきた

やあやあ
いらっしゃい
風に頼んじゃって
君をさらってもらったんだ
怒ってるかい

ううん・・いいのよ
私も会いたかったんだから
確かに私言ったよね
私をさらえるなら
さらってごらんって
だから・・
さらってくれたんだ
ありがとう

そうそう
今日は何をご馳走してくれるの？

任せといて・・・

好きなものを作るから

楽しみにしてて

1億2,800万分の一

4年前のこと？現在の人口って？

1億2,843万8,348人・・・。

あらためて確かめることができました。

・・・で・・・こんなpoemに(笑)

－ 1億2,800万分の1 －

日本人としてのひとりって

1億2,800万分の1なんだ

この1（いち）ってほんと重い数字なのだ

一人一人が平等というか

わけへだてがないところがいい

強き者も弱き者も

偉くても偉くなくても

有名でも有名じゃなくても

生を受けて生きるってことが

何故かいい

天に任せて生きるって

自然でいて風任せのようで

心病むこともない

僕はひとり

そしてそして・・・

1億2,800万分の1なんだ

家の音

一家の音

チリンチリンチリチリ
開け放った窓から
風が通り抜け
風鈴が鳴る

ポタ、ポタ、ポタン
キッチンの蛇口から
締め切りが緩くって
シンクに落ちる水の音

カタカタブーンブーン
ガタガタ、ガタガタ
洗濯の脱水完了
もうもうにぎやかなんだから

パタパタパタパタ
風でカーテンが波打つ
心地よい良い風だ・・・
ほんとに涼しくなった
そろそろ窓を閉めなきゃ

ニャアニャアにゃー
決まった時間に
散歩にやってくる
近所の猫たち

サクスの音
タッタッタランランラン♪
いつも聞いている
ラジオ放送
今日もいろんな家の音

リーンリーンリーン？

あっ・・・電話だ

ピーンポーン

えっ来客かいな

忙しいなあ・・・ほんとに

そろそろ夕食の準備しなきゃ

じっと見て

ーじっと見てー

美しい女性って
眩しくって
こちらが何故か・・・
恥ずかしくって
じっと見ておれない

でも眼が合わないよう
じっと見て
うーん素敵だ
ホント美しい女性だ

そして話すのも
恥ずかしくって
シドロモドロ
何を話してるんだか

そうなんだ
慣れ慣れ・・・
美しい女性の
多くいるところに行って
免疫力を付けなきゃ

じっと見て
じっと見つめて
綺麗になったねって
この調子・・・そうそう
この調子で仲良くなろう

風の通る道

－風の通る道－

決まってここは風が通るのです
台風の頃はそこのけそこのけって
強く押すように走ってくるのだが

秋のこの季節は
ゆっくりゆっくりと歩いてくる
これからは冬へのプロローグだから
窓を開け放っていると
冷たい感じなのだ

でも少しだけ開けておくと
部屋の空気と混じり合って
いい具合になる

風の通る道には
邪魔物は除いてるんだが
何故か時々忘れていて
軽いものがあると
床の上をコロコロと音を出して
転がっていくんだ

うんっ・・・？
誰かいるの
返事がない

階段を上ってよく見ると
小さい箱が転がっていた

風の通る道
そこには明日からの
物語が始まるんだから
そっとしておかなくちゃ

非凡なる凡人

—非凡なる凡人—

上流？

中流？

上を見ればきりがない

下を見ればきりがない

この貧富の差って

どうなんだよ・・・

凡人のレベルが

気が楽でいいんだ

非凡なる凡人・・・

好きな言葉だ

お金って

天国へ持って行けないんだから

そんなに儲けて何になる

いやいや

やっぱりお金って

邪魔にならないんだから

欲張ってみても・・・

どうすれば儲かるのか

汗を流して働く程度では

貯金も出来ない

楽してもうける奴が

多すぎるから

お金がこちらに回ってこない

貧乏人だから

声もあげれず

高い税金を払って

搾取されてるんだ

これが資本主義か

なにがなんだか
訳が分からないことを
ほざいてしまった

ああー非凡なる凡人
しゃあないなあ
宝くじでも買うか

死して金を残さず
死して名を残す・・・

少年のかおり

ー少年のかおりー

無造作に
腕をまくって
それも
チグハグだったり

Yシャツの胸の釦を
かけ忘れてたり

ベルトの端が
パンツの前に垂れていたり
少しだらしないかな

大人の今になって
同じようになってる

こんな格好が
何故か
新鮮に見えることがある

新たな着こなしかな
無造作のファッション？

少年のかおりって
若い時を思い出して
たまにはいいかも知れない

九月の恋

—九月の恋—

窓を開けると
そこには9月の思い出が
そして
9月の窓には
いろんな事が見えてくる

まずは・・・なあーにとって？
2学期の音が聞こえてくる
台風がやってくる
稲穂の叫びが聞こえる

食欲・・・
読書・・・
スポーツ？
何はともあれ
芸術の秋

いやいや・・・
僕は恋の季節って？
心地よい風に吹かれて
愛しき君を抱きしめた

ススキが風に揺れて
僕の心も・・・
ゆれている

何故か切ない
もっともっと
君を抱きしめていたい
そんな気がする

9月って
人恋しくって

人恋しくって・・・
たまらなくなってくる

孤独感

— 孤独感 —

何時のことだったか
ひとつの絵を見てると
孤独のなかへと
足を踏み入れたように
感じてしまった

そして・・・
何故だか子等の声と
聞こえてくる波の音を
待っているような
気がするのだった

ふっと我にかえる・・・
あっそうだったんだ

現実において
子等の甲高い歓声と
どどどっと大きな
波が押し寄せてきた

いまはもう孤独感は
波で消し去られ
引きかえす波を
じっと見つめている

誰もいない
砂浜にて
夏の終わりの日を
知るのだった

言い訳

漢字が書けなくて、読めなくて・・・「朴のう」って検索したら朴訥って表示されたってことは難解な漢字と言うことになるんじゃないか・・・。

いまさらなのですか？

何か抜けてるので、今からでもってことで・・・肝に銘じることに？

・・・します。

仁：人を思いやり、義：私利私欲にとらわれず、礼：敬意をもって人に接し、
智：学問に励み、信：誠実であり・・・これって費用が掛からないものね(笑)

－言い訳－

言い訳をしたくなる

そこは我慢して

言い訳しない

誰かがきっと見てる

必ず分かってくれている

人がいるんだ

言い訳じゃない反論は

しっかりしないと

自分の意見は持たなくちゃと

胸にしまっていないで

すべてを吐き出して

しまえばいいのに

責任をとるって

言い訳をしないことなんだ

そう教えられた

自分のした事じゃないのに

権限を持つって

そう言うことなんだ

あの空へ

—あの空へ—

雲なき空

これって青空？

先の先まで透き通って

突っ走りたくなる

遙か彼方はなにぞ見ゆ

あの輝く色は何ぞ

さあさあ

あの青い空へ

飛び立とうじゃないか

風を自由に操れ

空を舞い・・・

愉しきかな

風との戯れ

元気でなきゃ

いつだったか？4年前？

妻の父が亡くなったのです。

健康寿命93歳・・享年95歳すごいことです。

ほんと・・あやかりたいものです。

ご冥福をお祈りいたします。

そんなこんなで・・こんなp o e mに(笑)

—元気でなきゃ—

嗚呼・・もうだめだ

呼吸器が苦しいと

つつい弱気に

・・なってしまう

長寿も健康が一番

介護や入院やら・・

辛うじてでも

五体満足が一番だ

病気でも

日常生活が出来りゃ

幸せだと思わなきゃ

あといくらまで

生きながらえるのか

這ってでも歩けりゃいいか

人間なんだから

二本足で

しっかり立って

ゆっくりでも良い

前に進めなきゃ

そして美味しい物を

しっかり食べて

良い夢を見て
何故か恋をして

ほんと・・・
元気でなきゃ
頑張らなきゃ

秋、あき

ー秋、あきー

秋・・黄昏になると
オレンジ色に街が染まる
何故だか夕陽がきれいなんだ

そして大好きな女性と
腕を組んで歩いていると
不思議に
恋色に空気が変わる

秋って
物静かでありながら
心の中は楽しくって
踊っているんじゃないか

この時間の街ゆく人は
人恋しいのか
二人には気にもとめずに
急ぎ足で
家路に向かっている

自由の扉

—自由の扉—

あそこにも
ここにも
何故だかいっぱい扉がある

こんなにあると
どの扉を開けようかって
自然と迷ってしまう

そんなとき
何処からか声が聞こえて
こっちこっち
こっちだよって誘いの声が

それじゃって
声の聞こえる方へ
歩いていくことに

よくいらっしやいました
さあご案内しますね
ここからは・・・
自由な世界が待ってるよ

自由な世界って
どんな世界なのかな
何かひとつに決めてって？

では・・・
僕は好きな夢が見れる
自由な世界にするよ

新たなところ

—新たなところ—

不安と期待と
いやいやそれ以上に
夢と希望が・・・

みんなが同じ思い
新大陸へむけて
旅立つよろこびが
湧き出ているようです

新たな社会へ
飛び立つように
あれもしたい
これもしたいって

欲張って・・・ね
いろんな事に
挑戦して良いんだよ

新たなところって
そう言うところ
だから・・・
新たなところ
僕も仲間になりたい

子等の合唱

—子等の合唱—

小学校の卒業式だった？
いやいや何かの行事だったか
子供たちが合唱してくれたんだ

何故か感激して涙が出てきた
どうしてなのだろうか

ある日のこと・・・
子供たちの鼓笛隊が
演奏しながら行進してくる
このときもまた感激して
不覚にも涙を流したんだ

我慢せずに泣きゃあいいんだ
それも声を出して・・・
そう言えば長い間泣いたことがない
また声を出して泣いたこともない

あの時あの頃は・・・
年老いて涙もろくなったのか
いやいやそうでもないだろう

次のチャンスには泣くつもりで
それも泣くことを楽しみにして
子等の合唱曲を聞こうと思う

風をきって

ー風をきってー

ビューンビューンって

風をきって進む

秋って・・・

バイクの季節？

ブルンぶるん、ぶんぶん

エンジンをふかして

連なって前を進むんだ

一人もいいけど

仲間たちと

連なったのツーリングも

楽しいのだろうなあ？

ほんと・・・

僕もだけど

一度は体験したいよ

今日もぶるんブルン、ぶんぶん

街を連なって・・・

バイクが走り去ってゆく

四季のうた

－四季のうた－

春・・不如帰が鳴きて
小川はせせらぎ
近くの湖は輝いている

夏・・山々の緑
空の雲は青空に隠れて
海は賑わい蝉の声高し

秋・・木々は色づき
色とりどりの衣をまとう
山の頂は雪のかむる頃

冬・・朝靄がかかって
ストーブの灯油の香り
弾む息は白く
可憐な女性の・・
愛を感じるのです

感じること

－感じること－

アートにふれ
地方の人々にふれ
立冬の風景に・・・
何故か心をよせ

洗練された都会は
何かが・・・
変わろうとしている

そうなんだ
この季節・・・
何故か町々の息吹を
心に感じるのだ

そして・・・
新たなストーリーが
始まろうとしている

君の手

—君の手—

初めて手を握った
温かい手なんだ
ワァ冷たい・・・
僕の手を見て
クスッと微笑んだ

このまま握ってるね
うちが温めてあげるから

そんな何気ない
仕草なのに・・・

遥か昔の出来事を
僕はいつまでも
忘れていない

今はもう・・・
君は天国だけど
心の中では
いつも一緒だよ

よおーいどん

ーよおーいどんー

走れ走れよ

一番になりたいよね

いや僕は二番でいい

そんなこと言わず

一番になってよ

どん尻はいやだけど

一番もやっぱり嫌だ

あと少してところが

大好きなんだ

そう二番せんじがいい

ようーいどん

今日も走ろうよ

寒い朝

—寒い朝—

澄み切った青い空
白い息を切らして
マフラーを巻いて
コートの襟を立てて

そして
寒いと何故だか
足取りが早くなる

目的地に着くと
何となく一目散に室内へ

暖かい空気が
体中を包んでくれる
朝日をいっぱい
体中に受けてるようだ

マフラーとコートを脱ぎ
口から出るのは
今日は寒いですね？

一度部屋に入ると
出るのが億劫になってくる
この季節って
気が引き締まるよね

寒いとエネルギーを
ずいぶん使うからね

できる限り
閉じこもっていないで
外へ出なきゃ

寒い朝・・・

いつものことなのに

今日も頑張らなきゃって

思うのです

忘れ得ぬ人

－忘れ得ぬ人－

父母はもちろんのこと
妻や子たち
愛した女性
そして兄弟姉妹・・・

特に忘れようとしても
忘れようのない
かけがえのない人なんだ

心ならずも
この世から
天国に召された
愛すべき人・・・

瞳をとじると
今もあの頃の
情景が思い出される

僕にとって
忘れ得ぬ人って
崇高的で
優しくって
心を温かくしてくれる

嗚呼・・・忘れ得ぬ人々
一度ゆっくり時間をとって
いろいろと話したい
・・・と思っているのです

明日は

—明日は—

明日は幸運を
いっぱい掴もうと
してるのに

何故か
僕の前から
通り過ぎて行くのです

隣の方は
いとも簡単に
幸運を掴んでるのにね

次こそって
大きな網を使って
幸運をとって思うのだが
隙間をくぐって
幸運は去っていくんだ

うーん
もうもう諦めるよ
いやいやきつと辛抱が
足りないんじゃないか

そんなこんなで
明日も
明後日も・・・
続けようって
僕は思うのです

雑用って

ー雑用ってー

やりだしたら
あれもこれもって
ついでだからって

やりだしたら
何故か止まらない
こんな時って
決まっていい天気

どうせだろう？
しなきゃならないって
今からやっちゃおうよ

ついでだから
今日中にしとこうよ
年末が近くなったから
やることって
いくらでもあるんだから

まもなく X'm a s

—まもなく X'mas—

クリスマス・・・！
なんて良い響きだろう
クリスマスソングがなくても
心踊る月になった

何故かドキドキ・・・ワクワク
良いことがあるそう

あらたな恋も生まれたり？
素敵なプレゼントを頂いたり？

クリスマスの日には
讃美歌を歌ったり

そして・・・
やっぱりだけど
ロマンチックな
二人だけのクリスマス

まもなく・・・
まもなくクリスマスなんだ

The Party

—The Party—

クラッカーを打ち上げ
シャンパンを注いで
「メリークリスマス」って
気の合う仲間たちと・・・
ちょっとした
バカ騒ぎをしたくなる
クリスマスパーティー

昔に良くやった
パーティーなんだけど
今もやってるのかな

この時期になると
何故か懐かしくなる

そして
いろんな悩みと
恋の噂も・・・
内緒の願いごともしちゃって

隣に・・・
大好きな人がいるのに
なかなか好きって
言えないもどかしさ

踊れるチャンスに
やっと好きと打ち明けた
告白って・・・
やっぱりねって
ドキドキ感いっぱいなんだ

冬将軍

—冬将軍—

ヒュー

ひゅうー

ビューン

カサカサ

かさかさ

落ち葉が転がってる

ビューン

はなみずが風に飛ばされ

飛んでくよ・・・

こんなの初めてだよ

つまらんもの見てしまった

それはそうと

ほんとに・・・

おおーさむー

冬将軍サマ・・・

どうにかならない？

冬だから無理な相談だよ

でも12月っていいよね

新しい月がくるたびに

好きな月なんだ

嫌いな月なんだっていいながら

クリスマスが来るのだから

僕たち

クリスマスに結婚するんだ

寒い季節やから

互いに抱き合ったままで

いてよと思うんだ

冬将軍サマ

このまま居座ってていいよ

いやいやここは暑いよ

そろそろ退散するよ

腹立ちラインナップ

ー腹立ちラインナップー

最近電話がかかってくると
いろんなアンケート電話なのだ

そして連絡電話待ちしてて
おっ！
やっと連絡がって思ったら
勧誘電話なんだからね？

仕方ないなあ
教えたくはないのだが
携帯の番号にして貰うか

ピンポーン
えっ・・・
誰なんだろう
遅れて表に出てみたら
誰もいないんだ

郵便受けに広告が
こんなのでいちいち
チャイムを鳴らすなよ

日曜のラジオ放送
ふっと聞いた番組
訪問者を・・・
何故か君付けで呼ぶ
女性DJがいた
いいのかなあ？

訪問された方なら
お客さんでしょ
同い年か年下でも
さん付けにきなさいよ

同じ値段なのに
品物が劣ってるって
許せない・・・
自炊男子のぼやきなのです

些細なことで
腹立ちしてたら
体に良くないよ
心は広がって・・・？
最近そう思っているんだ

夢を見た

ー夢を見たー

大好きな女性と
二人っきりでX'masしてる

互いにプレゼントの
交換も終わって
ポーンと栓が開き
シャンペンをグラスに
注ぎあったり

うーん最高の一日に
気分も最高潮なんだ

想いも互いに届いて
さあこれからだよ

今から？
もっと良い感じになって
そう思ったところで
目が覚めた・・・

やっぱりね
夢って・・・
こんなものだよ

ひとりクリスマス

ーひとりクリスマスー

聖夜を祝う食卓

ローストチキンって？

おいしい焼き方がね

なかなか難しいみたい

でも・・・

オーブンから取り出すと

こんがりきつね色に

焼けていると・・・

気持ちも嬉しいんだ

そう思って

一度はチャレンジしたい

だけど結局は

つつい面倒で

出来合い物を買ってしまう

クリスマスって

自炊も楽しいのだけど

ひとりって寂しいよね

サンタクロースは

夢と素敵なプレゼントを

今になっても持ってきます

大人になった今も・・・

信じてるってズルいのかな

煌めく星空・・・

プラネタリウムのクリスマス

クリスマス投影での

二人っきりのクリスマスも

いいなあ・・・いいなあって

賛美歌が響く教会
パイプオルガンの音色が
心に届くクリスマス
ゆれるキャンドル
聖歌隊の歌う曲に
ひとり涙を流してる

別れの思い出

－別れの思い出－

むかしのこと・・・です
クリスマスイブを
二人して楽しんだ
それはとても
良いことなのです

でも・・・
いただいたプレゼントが
最後に貰った贈り物に
なってしまったんだ

悲しくって
君の想いのこもった
マフラーを
身につけられない

使わずにいて
大事にしまっていた
マフラーが
片付け中に
ふーっと出てきたんだ

やっとのこと
君からの過去の愛を
今になって感じて
涙してる僕がいる

いつものとおり

—いつものとおり—

同じ時間

同じ船

同じ弁当

いつもの・・・うどん

何の変化もありゃしない

新鮮でないのが

何故か安心で

これはこれで満足なんだ

いつものとおりじゃなく

今度は違ったものでって

最初はそう思う

でも・・・

その時になると

結局は・・・

同じようになってしまう

これがどうしてか

不思議でたまらないんだ

ふるさとの香り

ーふるさとの香りー

ふるさとの風
ここの風はここの風
いつもの風景
どこかで見た顔
うーん懐かしきかな

いつもの味がする
そして・・・
いつものバイク

風をきって走る
寒いのだが
何故かあったかい

気のせいかな
ふるさとの呼ぶ声

風が何処かへと
案内してくれるんだ
うーん
そうかそうか
この景色か
いつ見てもいいなあ

ふるさとの懐かしき香り
懐かしい風景
懐かしきかな人々

ことしは

— ことしは —

今年は良いことあった？
いや悪いことばかりだよ
まあまああってとこだよ僕は

良い悪いは？
こればかりは
過ぎてしまわないとね

でも頑張ったのなら
それはそれは満足な1年だよ
うらやましいよ

僕なんて・・・
何も頑張っていないし
仕事もしていないし
君がうらやましいよ

やらずして
何が良いんだ
やってこそそのものだろ

ことしはだめでも
明日へ続いているし
やるだけはやらないとね

希望と夢と

—希望と夢と—

愛する人の
命奪われ・・・
家も破壊し・・・
先の夢も消えて
残ったものは
何だろうか？

でも明日ある限り
生きてる限り
野の花が咲くように
いつまでも
希望の花が咲く

亡くなった人々が
種を蒔いて下さった
だから、だから・・・
希望の花が咲く

そしてまた・・・
新たな夢を
私たちに与えてくれる

希望と夢と
私たちは・・・
きっと希望を叶え
必ず夢を叶える
僕は・・・
そう信じている

あの頃

—あの頃—

進んでも進んでも
前に進まない
何をやっても空回りで

気持ちだけ進んで
体が前に進まない感じ
こんなときって
何をやってもヘマばかり

諦めというか
初心に帰るとするか
失敗しても良いんだと
開き直って・・・

うーん・・・
少し前に進めたぞ
この調子この調子
考え過ぎても駄目なんだ

あの頃は失敗ばかり
でもあの頃があったから
今がある・・・
過ぎてしまえば
良い思い出なんだ

おめでとう

—おめでとう—

C o n g r a t u l a t i o n

・ ・ I L O V E Y O U

メッセージのカード

封を開けちゃうと

大好きな君も笑顔

僕も笑顔・・

何故か

一緒の笑顔って

心がかようシーンなんだ

だから・・

あなただけに

特別の言葉と詩を添えて

想いをこめた1枚のカード

たかがカードですが

心からの贈り物なのです

遙かふるさと

—遙かふるさと—

何度も何度も・・・
ふるさとへは帰っているのに
ふっと遠いところだったら
どうなのだろうって

1日で帰れるって
遠くはないだろう
この頃そう思うのだ

便利なこの時代こそ
ふるさとは
遙か彼方にあっても
ただいまあって
えっ・・・
もう帰ってきたのって

遙かふるさとも
今はもう近くなって
しょっちゅう帰ってる

ふるさとの薫り
ふるさとの人の顔
何処かが違う
僕のふるさと

帆をあげよ

—帆をあげよ—

嗚呼・・・我ら友たち
さあ新しい世界へむけての船出だ
さあ迷っていないで
全員気をつけ—

前方をしっかり見よ
錨を上げよ
帆を高く上げよ

この先どうなるのか？
希望に満ちた心・・・
帆をいっぱいにあげよ
青空と青い海と
・・・いつまでも勇気あれ

夢での邂逅

— 夢での邂逅 —

精いっぱいので
君を抱きしめて
もう離さないからって
ところで目覚めるのです

正夢って
ほんとうなんだ

同じ夢って見ないよね
そう思っていたら
思いがけなく
出会ってしまったんだ

まさかねえって
確かめたくって
お互いに
頬をつねったり

こんどはね
キスしたりして

会えたのが不思議だねって
夢もほんとうになれば
君も僕も
もう有頂天なんだ

還付金

ー 還付金 ー

自分へのご褒美
病気お見舞い
高い医療費を・・・
払ってんだからね

年金生活者に
税金をかけるって
やめてほしいよね

収入っていえばそうだけど
今まで精いっぱい働いて
苦労したんだからね

そうそう
せっかく貰った還付金
いつもだけど
何故だか何に使ったか
思い出せないでいる

ゆっくり

－ゆっくり－

ゆっくりまったり

ほんと

のんびりします

そして

田舎風景じゃないのに

何故だか心穏やかに

座禅じゃないけど

無の境地に

そうだよねって

誰も言ってくれない

そんな実家に

ただいま滞在中

ほんとに

ゆっくりまったり

何気なく

—何気なく—

何気なく

さり気なく

自然な行い・・・

努めてわざとじゃなく

特別なことでないように

何気にいろんなことが

出来るっていいよね

そんな人に

出会って・・・

自分を見つめ直したり

お金をかけない

自分磨き・・・

いまさらなのに

気持ちだけでも

頑張ってみようかと

思っているのです

進むべき道

—進むべき道—

ここにいるうちに
やり残したことって
ないのだろうか

よくよく考えてみると
あれもこれもって
数多く出てくるんだ

いちばん大切なものって
そうは思っても
部屋の片付けのようで

何もかも必要な気がして
進むべきことが
なかなか決まらない

そんな日々のなかで
ふっと思うのである
天国へ持っていけるもの
そうなんだそれにしようって
そう思ったのです

懐かしき頃

—懐かしき頃—

ひよんなことから
懐かしき・・・
いろんなシーンを
思い出してしまっ

ああーそうだったんだ
そんなことあるあるって

いやそれはそうと・・・
そんなことは
なかったらろう？

鮮明な記憶が
突如として現れて
あの頃に・・・
タイムスリップする

そして・・・無意識に
大好きな女性に
電話をしてるんだ
昨日どうだったって

えっ？
何時のことなの

電話番号が変わってないのも
不思議なことだし
女性の声も変わっていない

久しぶりよね
なんの風のふきまわし？
でも良いわよ
わたしも電話をかけようと

思っていたのよ

再会を約束して

電話を切ったのに

今すぐ会いたくなった

懐かしき頃の

いろんな続きをしなくちゃ

明日へ

—明日へ—

あの頃は
夢と希望に心が踊って
叶わないものはないって
思っていた・・・

でも遥か昔の事なので
何故かしら今は・・・
天国の君が残してくれた
言葉を思い出している

同じ進むなら
いつも明るく前を向いて
同じ進むなら
夢と希望をもって

その言葉ひとつひとつが
今も心に響いているんだ

分かっているのに

—分かってるのに—

薔薇の棘は痛いって
分かっているのに
刺さって涙してる

良い夢は続きがないと
分かっているのに
もっと見たいって
欲張っている

何度も同じ失敗を
繰り返していると
時にはうまく行って
満足している僕がいる

死ぬのなら
苦しまずに早くねって
そう思ってる人は
長生きすると言う

ほんとかなくて
考えてるうちに
還暦が過ぎ古希が近づき
あと・・・何年まで
生きながらえるのか

そう思いながら
いい歳を重ねてしまった
そして・・・そして
クリスマスのこの日に
何故か神に祈っている

昼下がり

ー昼下がりー

木々がそよぎ
今日は明るくって
陽光で草木の緑が輝きます

風がざわつき
囁きが聞こえそう
またお邪魔しますね
えっ？
ふりかえると
そこには誰もいない

気のせいかな？
まあいいかな？
いい天気だから
久しぶりに
写真をパチリと

あとで気づくのだけど
撮った写真に
妖精らしきものが
あー
そうだったのか
あの時、あの声は？

いつぞやも
確か声が聞こえたような
お元気ですかって

これって
夢の中の昼下がりなんだ
でも何故か・・・
妙に心が落ち着くのです

朝のスマイル

ー朝のスマイルー

笑顔でおはよう
朝のスマイルで
一日が始まり
おやすみで一日が終わる

おはよう
そして・・・
ありがとうも同じだ
笑顔をそえての
感謝・・・です

おめでとう・・・
最高の笑顔が
似合う祝福のことば

あいさつ・・・
されどあいさつ
少しの笑顔で
もっとシアワセ

贈り物

—贈り物—

なくてもいいけど
あると嬉しいんだ
堅実な贈り物って

本来の果たすべき
機能があって
シンプルなもの

余計なものは
ないほうがいい
長く使って・・・
長く愛してくれる物

毎日何気で・
使うのが楽しい物

自分ではなかなか
買わない物
何だろうって
考えてしまう

そして
相手が負担に思わないもの
贈るときにいつも気にしてる
プレゼントに対する思いやり

プレゼントって楽しい
選ぶだけでワクワク
ドキドキ・・・
告白する気持ちと
同じなんだけどね

だから・・・

プレゼントを喜んで
あげちゃうんだ

そして
僕はプレゼントを貰ったら
大喜びするんだ

気になる女性には
可愛いシュシュやら
カチューシャやらをあげたり

筆まめな人には
ちょっと洒落た
筆記用具なんかも？
うーんシンプルイズベスト
えっ・・・なぜ？

抱擁

愛した愛しき人・・・？

そう言えば長い間・・・抱きしめていないって気がついたのですが、ほんと大好きな人をずーと抱きしめていたいものです(笑)

そんな遥かむかしのシーンを僕は思い出していました。

そうそう・・・この1年「幸せが逃げないように」抱きしめたままにしておきます。

いけませんか？

—抱擁—

抱きしめあって

じっとしてると

君の温もりが

僕の心に届きました

遠き昔の・・・

出来事なのに

いつまでもいつまでも

僕の記憶の中に

君がいるのです

思い出すのを

楽しみに

そっとしまったままに

しているのに

何故か・・・

待ちきれずに

またあの頃の出来事を

思い出してしまうのです

ふるさとの山

大晦日の出来事？

娘夫婦が訪ねてきて実家でのゆったりまったりの生活がスタートしていたのです。

そして大晦日に山に登って来たいってことで、携帯電話で話し合っ
て双眼鏡もないし、お互いが手をふっても見える訳ないし・・・。

何らかの合図を実家から出来ないのだろうかってことで鏡で日光を反射
させて山の頂上付近に照準を合わせてみたのです。

あああ・・・見えた見えたって・・・なんとゾットした感動がありました(笑)

ーふるさとの山ー

生まれた時から
ふるさとの山々は
私たちを
長い間ずっと
見守ってくれた

ふるさとの
山に向かって
叫んで見るのもいい

でも
山から叫ぶ方が
なおさらいい
そんなふるさとの山

いつもの景色
いろんな山々の景色も
じっと見ると・・・
心まで穏やかになる

気分を変えて

半ズボン男子と言うか・・・実は僕の場合、半ズボン老人ってことになるのじゃないかと・・・でもお洒落ぽくっていいんじゃないですか？
僕だけかって思ってたら・・・多くの方々が愛用してる様です。

きっかけは夏から？

夏から半ズボンを着用していたら・・・このまま冬になり防寒にはギンズや
ラグフォーマでフォローしたりして何ら抵抗なく半ズボンを愛用してるのです。
若者たちだけじゃなく老人も似合うんじゃないかって思ってるのです。

そうそう・・・顔だけは老けてますけど・・・。

外見だけでも老け込まないためにもね・・・同輩の方々も如何ですか？
－気分を変えて－

少し違った服装って
良いものなんだけど
目立ちたがり屋かな

寒くないって
心配されたり
なんだか
気かけられたり
結構見られてるんだ

知らんぷりの
無視の感じじゃなくって
良いんじゃないかって

気分を変えるって
何かとワクワク・・・
ドキドキなんかして
ときめいてしまう

出かけよっ

－出かけよっ－

寒くなるとね
出かけるのが
億劫になるよね

でもお洒落して
人と少し・・・
違ったものを着るとね
何故だか・・・
出かけたくなくなってきます

気に入った
服なんかを着て
おすまшина顔して
出かけようよ

この季節・・・
室内に入ると
上着を脱いじゃおう

手に持ったり
腰に捲いたり
肩に掛けたり

明るい春色の
薄手のカーデガンも
よく似合う

Tシャツも良いんじゃないか
そしてコートの下は
半袖だったりして
これはこれでなかなか良い

こんなこと考えてると

出かけたくなってくる

正月休み

ー正月休みー

寝ていようと思ったり
今年こそ初詣にって？
気合いが入っていたり

初デートだって
顔中が嬉しがっていたり

寒いけど・・・
凧揚げに行くよって
出かけたたり

雑煮の餅・・・
3個は食べなきゃって
がつついたり

寿司初めにって
早速行ってきたり
お正月って
いいなあ・・・いいなあ

福は遠く

ー福は遠くー

年末は宝くじを買い忘れ
冬来たりなば福遠からじ

当たるのは不幸ばかり
体調が急変したり・・・
他にはこれもこれもって
いろんなことが

いつものことだけど
今年こそは
買い忘れしないよう
そして福来たりって
一度は言ってみたい

そんな日常だけど
どうにか平々凡々って
暮らしているんだ
これが僕の幸せかも知れない

こんにちは

— こんにちは —

こんにちは

お元気でしたか？

笑顔で・・・そう笑顔で

同じ話すなら笑顔で

愛想笑いでもいい

いや自然に・・・

笑顔になるのがいい

毎日鏡の前で

笑顔をつくって

こんにちは

そして一番いい

笑顔をつくるんだ

笑顔を意識せず

こんにちはわって言うってみる

うーん・・・無意識に

笑顔になってるんだ

こんにちはわ・・・

お元気ですか？

バイクに乗って

ーバイクに乗ってー

寒風にむかって
進んでいく
寒いとばかり思っていたのに
不思議なことに
そうでもないのだ
十分に耐えられる

エンジン音を・・・
街の中に残して
進んでいく

目的地まで
さあ・・・あと少しだ
ぶるるる・・・
ブルブルブルン

寒い昼下がりに
僕のバイクは疾走する

春は何処に

ー春は何処にー

梅が咲いたって聞けば
おお一ついに咲いたかって
寒いのに何故かうれしくって

まだまだ冬なんだから
殺伐とした風景も・・・
いい加減に嫌だったし

今年こそはね？
何処かで菜の花畑を
見に行かなくちゃって
思っているんだ

黄色い花びらって
春満開って感じで
心まで春が来るんだ

春はまだなのに
春は何処なのに
今からワクワクして
ほんとうに・・・
楽しみにしてるんだよ

むかし昔

—むかし昔—

むかし、昔、懐かしい
えっこんなに可愛かった？
こんなにイケメンだった？

そうか・・・そうなんだ
だからと言って
昔の私に会いに行こうって

歳を重ねただけ
今もいい顔してるって？

ありがとう
でもやっぱりね
むかしは良かった

だったらね・・・
懐かしきあの頃に
みんな帰っておいで

むかし昔って
遠いところなんだから
今のうちに帰ればいい

1月のうた

ー1月のうたー

1月に初めて会えば
最初の言葉は
やはり・・・
おめでとうなんだ

いつもの？
気のおけない友人が
集まると新年の話題に
なってしまうんだ

今年は阪神が優勝だよ
若い娘と恋におちたいよね
えっ？
どさくさに
何故だかこんなことも

いろんな話の始まりが
1月なんだよね

新たな年なんだから
去年の話なんかすんなよ
アホちやうか！

まあまあ・・・
初春なんだから
しょうもないことで
騒がなくてもって？

なんだかんだいっても
1月って
楽しいよね

手の動き

一手の動き

手はものをいう？
案外人に見られてるんだ
性格を見破られるかも

人柄がばれちゃったら
困るんじゃない
そうそうしっかり
手入れしておかなくちゃ

この手で
好きな女性の
手を握らなくちゃね

手の運動をして
動きも健康でなきゃ

きれいな手って良いよね
手荒れをなくさなきゃ
そしてそして・・・手って
もうひとつの顔じゃないか

ゆとり

ーゆとりー

緊張が続いた1年だった
やはり疲れてるんだ

銭湯なんかで気持ちも
ゆっくり、のびのびと
大きい風呂っていいなあ

そして一人湯じゃなく
誰かと連れだって
行きたいもんだ

来年の新年は
温泉に入って
新年を迎えるんだ

そんな夢って
何だろう・・・？
一番実現しそうな夢
ゆとりって大事なんだ

わが道

－わが道－

いつになっても

明日に道を求め

今日通り過ぎた道を

再び歩いて・・・

これで良かったかと

過去は・・・

変えれないにしても

自分自身の糧になる

反省なくして・・・

明日はないのじゃないか

同じ道を歩くのか

違った道を歩くのか

決めるのは自分なんだ

今日って言う日は

もう過去になっている

いつの日も

いつまでも・・・

明日こそ我が道がある

そう信じている

あの日あの頃

—あの日あの頃—

初めまして

こちらこそよろしく

うーん・・・可愛いなあ

一目惚れかも

新人ってほんと初々しい

最初はぎこちない感じ

でもすぐに打ち解けて

初めて会った気がしない

今思うと

これってやっぱり

相性がいいってことかな

僕がもっと・・・

若ければいいのにね

もっとおそく

生まれてたら良かったのに

あの日あの頃

今になって思い出しても

楽しいことばかりなんだ

f i c t i o n

— f i c t i o n —

作り事、作り話、創作

嘘ばっかし

要は・・・

ありもしないことばかり？

いやいや

嘘から出た真（まこと）も

f i c t i o n・・・

創作ってのが

絶対に聞こえが良いよね

それはさておき

ポエムってなあーんだ

心の叫び？

創作もあるんだけど

ほんとうが多いよね

コピーライターも

ポエマーのような気がする？

商品や物に代わって叫ぶのだから

そして・・・

心に届く響きがあるんだ

春の花

ー春の花ー

好きな花はなんですか
春の花は好きですか
一緒にいると楽しくなって
大好きな君といるようです

春の花たち
セイヨウクモマグサ
チューリップ
ヒヤシンス
うーんまだまだ多いんだ

春の花
こっちを向いてって
おねだりしたら
ニコッと笑って
おじきをするんだよ

いつも二人

ーいつも二人ー

昨日から二人

今日も二人

ここから二人

何時も二人

明日も二人

いつまでもいつまでも

仲良しなんだ

大好きな君だから

二人またふたり

シアワセが

いっぱいなんだ

ただいま実家なり

ーただいま実家なりー

ふるさとに恋して
ふるさとの香りと
ふるさとの言葉と
懐かしい人々と・・・

優しきかな
ふるさとの風景たち
また来まいよ・・・

別れの言葉に
胸もときめいて
何故か楽しくなる
ふるさとなんだ

さらばふるさと

ーさらばふるさとー

いざさらば

いざさらば・・・

ふるさとでの生活って

いいなあって

いつも思うのですが

次は・・・

小学校の同窓会に帰ります

あまりにもまったりして

考えれば

いろんな所に行きたかった

次こそはって

思うものの

はたしてどうなのか

とりあえず・・・

さらばふるさと

便利なこと

ー便利なことー

ほんと便利な・・・
世の中なんだから

振り込め詐欺なんかの
被害をゼロにしなきゃ
騙したやつが
けしからんって
憤慨してるんだ

どうせ
便利な世の中だから
ヒト型ロボットに
まかせましょう

そして・・・
介護もお願いね

僕のミネラル

ー僕のミネラルー

僕のミネラル？

好きな音楽

好きな景色

好きな植物・・・

えっ・・・

なあーに

やっぱり

ミネラルって？

好きな食べ物かな

それも良いけど

好きな人と

一緒にいい

そして仕事も

大好きになって

心はまったり

気持ちはゆったり

ミネラル150g

えっ？

涙はね

— 涙はね —

涙は心からのメッセージ・・・

悲しみを涙で伝えます

喜びを涙で伝えます

涙の出ない悲しみなんて

ほんとうの悲しみじゃない

涙の出ない喜びなんて

ほんとうの喜びじゃない

だからね・・・

思いきり涙を流して

声をあげて泣いてもいい

静かに泣いてもいい

涙はね

心からのメッセージ

しっかり聞くことにするんだ

心のメッセージ

ー心のメッセージー

涙もろくなって
いくら悲しくても
泣かないでおこう

そして・・・
辛いことがあっても
泣かないでおこうと
思うのです

涙は愛する人との
最後の別れに
残しておきたい

涙って・・・
君からの大切な
心のメッセージだからね

何故か・・・
ふっと昔のことを思い
そう思うこの頃なのです

希望の明日

－希望の明日－

夢ふくらむ春
希望への道
心かがやく未来

進むのはあなた
明日への夢と希望が
叶いますように？

そしてそして・・・
私と一緒に歩きますか？
一人でもお元気ですか？

春の陽気とともに
今日もまた
私は前にむかって
歩いていきます

春にはね

ー春にはねー

いつかは訪れてみたいって
思っていたところへ出掛けよう

春は待ちに待ったって
いろんな花たちが
いっぱい咲き誇って
あまりもの美しさに
感激するんだ

陽春がかげりうすら寒い
やっぱり春って
まだ少し肌寒いんだ

時の移ろい・・・
人の心は変わるけど
春の景色は変わらず
いらっしゃって迎えてくれる

一番大好きな君と同じに
慎ましくって可愛くって
そっと唇に似た花びらに
何故かキスをしてしまった

梅の花

— 梅の花 —

花びらはどうしてどうして
小さくてなんだか可憐だ

少ししか・・・
咲いていないこともあり
寂しい気もするけど
この時期はこんなものか

近寄ってじっと見つめていると
お久しぶりねって
そうなんだ
あの時の好きな女性の笑顔が
目の当たりにあるのです

何故なんだ
不思議に思ってだあれーって
名を聞くと目が覚めた

何を暗示してるのか
それはいいとして
雑然と同居してる自宅が
ぱっと明るくなった

遠くへ

ー遠くへー

人生の雑踏から抜け出て
遠くへ行ってみたい

遠くへ？
何処へ行くのか決めなきゃ

遠くへ行きたいって
何故だか
話の中で時々使ってしまう

無意識に出てしまう言葉
遠くへ・・・
心の中にあるメルヘンぽい
憧れがそうさせているんだ

遠くへ行ってくるよって
今日もそう
会う人会う人に
そう言っている僕がいる

錯覚

－錯覚－

こうして同窓会に
参加出来るって
健康でなくちゃ
来れないのだからね

そうなんだ
ここにいてるだけで
奇跡なんだ

1年1年大切に
生きてきたこそなんだ

もういつ天国に行っても
不思議じゃない歳だからね

1年の命の重み
大切な大切な時間・・・

命の時間を削って
生きてるのだから
今こそ・・・
しあわせなんだと
錯覚してる私がいる

新年度

—新年度—

何はともあれ
はい新年度ですよ

新年度・・・って
なんていい響きなんだ

良い気候だし
町々は明るいし
山々は桜色で美しい

何が何でも
心はうきうきする

冬の服を高く放り投げて
どさっと言う
床に落ちる音を聞くと
ほんとうに鎧のようだ

それに比べ
新年度の服装の
なんて軽やかなこと

空に衣が・・・
ふわっと舞い降りるような
心も身体も
なんて軽やかなんだ

わたしの新年度って
この身に羽が生えたようで
大空を飛んでいく気持ちなんだ

いざ出陣

ーいざ出陣ー

郷土の夢と希望と
我が町から
これぞと言う人を

人が政治をつくり
人柄が人のために
県政のためになり

そして
人柄は良きことに
良き政治へ
正義の道しるべ

期待は夢を実現し
希望は現実を形にする
友よいざ出陣なり

初めての

いつぞやの出来事？..少しむかし！！

一番乗りかと思ったら先客があり、3番目でしたが無事投票を終えました。

何故かスタッフの方から期日前投票投票用紙請求書兼宣誓書のチェックがあつて

それも一度ならずもスタッフの方が代わる代わる2度もあり..kさんついに

切れた？..じゃなく、ツコミを入れました。

実は私..怪しいものです(笑)

そんな訳で..実家滞在10日目..そろそろM県にある自宅に帰ります。

今回は..フェリ-とフットバス共通利用券なので復路はバスを利用します。

うどん県→三宮へは初なので..何故かドキドキします。

—初めての—

初めての..

いい響きで好きです

初めて君の手を握った

温かい..

君の心が

僕の心に届きました

初めての..

好きと言った

それだけなのに

すっかり汗をかいてる

初めての..

もういいよ

何故か恥ずかしい

4月の詩

－ 4月の詩－

梅の頃を過ぎ
桜の頃となって

何故か春って
4月なんだと

古き恋を偲び
裸足の青春時代を
懐かしく想う

なんたって
万葉歌人たちの
恋の歌もよく似合う

待ちわびた
春への想い
ああ・・・
花に託した恋心を
誰が詠うのか

花が溢れる
古都の恋模様
私も染まってみたい
四月の詩なかに

新緑

—新緑—

若葉香るところになると
心も軽やかになってくる

清らかな緑が
辺り一面に広がると
胸にしまってた想いが
何故か弾けてしまう

新緑・・・
大好きな人に
会ったときのよな響き

若葉の映える山々を
眺めていると
ふっとあの頃を
思い出して
懐かしき人々を想う

また実家へ

ーまた実家へー

何度帰っても
ふるさとして
ほんとうにいい空気

でも今はもう
都会というか田舎というか
どちらが田舎か
あやふやなのです

まあどちらも
ほんとうにいい空気
だから・・・
自宅と実家で生活してる
二重生活者っていうか

2つのふるさとして
贅沢でしょうか？
ということで
実家へ
向かっているのです

回転木馬

一回転木馬

未だに乗ったことがない
不思議な国へ行くんじゃないか
幼い頃の少し怖いイメージが
何故か思い出されるのだ

上下に動きながら
回転するあの微妙な誘惑
一度は乗ってみなくちゃって
思っていたのに
もう大人になってしまった

いまさら乗るのって
恥ずかしいだろう

いやいや・・・
僕は1人でも乗るよ
でも周りの人がね
皆がこちらを向いて
指をさしてるんだ

こりゃあなんだ・・・
無視すればいいのに
途中で降りることも
出来ないし
ああ～
妄想の情景で良かった

回転木馬・・・
今度こそ乗ってみたいと思う

想い

ピュアピュアリン?・・・このように聞こえるのですが正しいですか?
kissは佯と言っても反対の意味よ♪・・・あらあらそうだったんですか・・・。
これについては記憶にとどめておきます。

さてこの曲、聖子さんが歌ってるのですが、聴いたことが確かにあります。
そして何故か昔にタイムスリップ°です(笑)

— 想い —

秘めた恋心・・・
何故か想いって
絶対恋なんだから

そうなんだ
想いって悩みなのか?
愛する人を想って悩み
好きな人を想って苦しみ

ほんとうに
恋するって
胸が傷みます
胸を病みます

だから
一度や二度は
必ずね・・・
恋をしなきゃ
いつもそう思ってる

E p i l o g u e

e p i l o g u e

詩集タイトルはsunny after the rainだが「二人の心の詩（うた）」や「君と一緒に」等が

思い浮かんできたのであるが、英語表示もいいかなと思ったのです。

詩集のタイトルって服装でいえば上着のようなもので中身がそれに伴ってるかと言えばそんなことはなくいい加減なところがある。

そしてこの詩集のタイトル？うむ！何処かで聞いたような？

そうなのです。偶然なのであるが歌手のU r uさんの曲名と同じとなってしまいました。

実はy o u t u b eにてカバー曲を歌っていたU r uさんのアソだったことからメジャーデビュー後のリリースした曲名が何故か記憶に残っていたのでしよう。

意味は雨のち晴れと思うのだがポジティブ的で好きな言葉の一つなのである。

ところでいつものE p i l o g u eのルーズ？

詩を作ってる僕にとって一番嬉しいのは、読者の皆さんが数多くの詩の中から好きな詩に出会っていただき、何度も読み返していただくことなのです。

新しい時代、読者の皆さんの人生が光に満ちていついつまでもと念じています。

ところで前置きはさておいて本題ですが、やっぱり5月ですよね・・・良い季節です。皆さん方も好きな季節かも知れませんが、そして新緑眩しく何もかも新鮮で爽やかです。だからなのかい思い出とともに不思議に大好きだった女性の瞳を思い出すのです。

今日からは新たな元号である令和になります。

これからずっと希望と夢のある日が続きますようにと思っています。

そして光に満ちていついつまでも心も身体も健やかにと願うのです。

あらたな時代を迎えて、何かいいことがありそうだと思うのは僕だけじゃないはずですよ。そう思うと何もかも新鮮で心まで清々しくなってきます。

このたびの詩集は雨の後は必ず晴れる？いやなことも明日からはいいことがある的な想いで詩作してはみたのですが、気負ってはみても出来のいい詩になるはずはないのだけれど、楽しい夢でいっぱいになるようにとそんな願いを込めた作品を目指しましたが果たしてどうなのか、完成後に今一度読み返してみてもっといい詩が書けたはずだと反省してる次第です。

詩集の発行にあたりお世話になってるパブーさんが9月末で閉店と聞きました。

残念なことですが、運営に関わってこられた皆さんにはこれからもお元気で幸多かれと思います。新元号の令和に発行できたことは本当にいい記念になります。

どんな時代でもそうですが、大きな声で大好きな人の名を呼べるような時代でありたいし

何処からか好きな人からわたしは元気だよ！と返事が返ってきて欲しいと思う。

最後になりましたが、発表の場をご提供下さったP u b o o様、いろいろとお世話になった知人や友人そして諸先輩の方々に感謝を申し上げます。

令和元年5月1日

(2019年5月1日

)

飛鳥 圭

s u n n y a f t e r t h e r a i n

(詩集 雨のち晴れ)

<http://p.booklog.jp/book/123587>

著者：飛鳥 圭

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/sanbika21/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/123587>

(著者のウェブサイト <http://asuka-12.seesaa.net/>)

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト